

Access



飛行機

東京－鳥取 約75分
(空港連絡バス「三朝・倉吉駅行き」で八屋バス停まで約50分)

東京－米子 約80分
(空港連絡バス「米子駅行き」で米子駅まで約30分)

鉄 道

東京－倉吉 (新幹線+特急) 約6時間
名古屋－倉吉 (新幹線+特急) 約4時間15分
大阪－倉吉 (特急) 約3時間10分
岡山－倉吉 (特急) 約3時間15分
博多－倉吉 (新幹線+特急) 約5時間10分

バ ス

大阪－倉吉 約3時間30分
岡山－倉吉 約2時間40分
広島－倉吉 約4時間30分

Map



Amitié 人と動物の未来センター「アミティエ」
〒682-0643 鳥取県倉吉市下福田706-127 Tel.0858-33-5397



公益財団法人 動物臨床医学研究所

〒682-0025 鳥取県倉吉市八屋214-10 Tel.0858-26-0851 Fax.0858-26-2158
E-mail: dorinken@apionet.or.jp URL: <http://www.dourinken.com/>

東京事務所 〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-4-2 KDX茅場町ビル4階(株)iti内
(人と動物の会) Tel.03-6661-7574 Fax.03-6661-7576 E-mail: haac@haac.or.jp URL: <http://www.haac.or.jp>



公益財団法人 動物臨床医学研究所

明日の動物医療を考える推進力。

Animal Clinical Research Foundation

Contents

目次	01
理想と理念	03
「人と動物の共生の探求」 理事長 山根義久	
活動	05
<ul style="list-style-type: none">●動物臨床医学会●合同カンファレンス●小動物臨床研修診療施設●社会貢献活動●小動物臨床血液研究会●小動物臨床栄養学研究会●動物のいたみ研究会●その他の活動●学術交流・功績	
出版	11
入会案内	12
インフォメーション	13
<ul style="list-style-type: none">●施設案内●機関及び事務局の組織図●沿革●研究所役員	

人生はいつも
種を蒔き続けなければ
ならない。



人と動物の共生の探求

理想と理念 | 理事長 山根 義久

公益財団法人 動物臨床医学研究所の設立の目的は“獣医学に関する臨床的研究を行い、併せて獣医療技術の向上を図るための教育と知識の普及及び情報提供を行うことにより、動物臨床医学の向上を図るとともに、人と動物の共生の探求及び動物愛護思想の啓発普及事業を行い、もって獣医学術の発展と社会の福祉の向上に寄与する”ことであります。

これまでの公益財団法人の歴史を振り返ってみますと、現在の動物臨床医学会の前進である第1回動物病院臨床研究グループ年次大会が鳥取市で開催されたのが1980年(昭和55年)であります。その後、名称変更がありましたが、1996年(平成8年)の第17回動物臨床医学会年次大会より日本学術会議の登録学術団体としてスタートし、その学会が2014年(平成26年)に第35回の記念年次学会を迎えるまでに発展しました。一方、2010年(平成22年)には

文部科学省科学研究費補助金取扱い規程に規定する研究機関としての指定を受け、さらに2011年(平成23年)には農林水産大臣より動物臨床医学研究所グループ病院が“小動物臨床研修診療施設の協力型臨床研修施設”としての認定を受けました。

また、公益財団法人 動物臨床医学研究所の前進である小動物臨床研究所が設立されたのが1981年(昭和56年)であり、紆余曲折を経て1991年(平成3年)に鳥取県認可の財団法人鳥取県動物臨床医学研究所となり、さらにその20年後の2011年(平成23年)4月より公益法人制度改革により内閣府認可の国の公益財団法人「動物臨床医学研究所」に移行したものであります。その間に附属動物舎(現在の野生生物センター)を1994年(平成6年)に、さらに念願の研究本館を1995年(平成7年)に建設し、2011年(平成23年)には、人と動物の共生の深求及び動物愛護

公益財団法人 動物臨床医学研究所

理事長プロフィール

山根 義久 | やまね よしひさ |

昭和18年4月生まれ、鳥取県出身、医学博士、獣医学博士
日本獣医師会前会長、東京農工大学名誉教授・特別招聘教授

【略歴】		
1968. 3	鳥取大学農学部獣医学科卒業	
1970.12 ~ 1994. 2	山根動物病院院長	
1971. 9 ~ 1979. 9	岡山大学温泉研究所副手及び研究員	
1979.12	医学博士	
1981.10 ~ 1991. 3	小動物臨床研究所所長	
1985.11	獣医学博士	
1991. 4 ~ 1994. 2	財団法人 鳥取県動物臨床医学研究所理事長・研究所長	
1994. 3 ~ 2009. 3	東京農工大学農学部獣医学科獣医外科学教授	
1994. 4 ~ 2009. 3	岐阜大学大学院連合獣医学研究科教授	
1995. 4 ~ 1999. 3	東京農工大学農学部附属家畜病院院長	
1996. 4 ~ 2011. 3	財団法人 鳥取県動物臨床医学研究所理事長	
2002. 4 ~ 2006. 3	東京農工大学農学部附属家畜病院院長	
2005. 7 ~ 2013. 6	社団法人 日本獣医師会会長	
2006.10 ~ 現在	日本学術会議連携委員	
2009. 4 ~ 現在	東京農工大学名誉教授・特別招聘教授	
2011. 4 ~ 現在	公益財団法人 動物臨床医学研究所理事長	

【所属学会・研究会等】	
動物臨床医学会(理事)、日本獣医学会(名誉会員)、日本胸部外科学会、日本外科学会、日本脈管学会、日本人工臓器学会、日本移植学会、日本臓器保存生物医学会(評議員特別会員)、血液代替物学会、日本胸部外科学会関西地方会、日本獣医循環器学会、獣医麻酔外科学会、日本獣医画像診断学会、日本小動物獣医学会、ヒトと動物の関係学会、水産生物学研究会、動物用抗菌剤研究会、日本獣医ガン研究会(顧問)、日本犬糸状虫研究会、日本獣医腎泌尿器学会(顧問)、メーブル研究会、動物臨床医学会編集委員長、Editorial Board of the Philippine Journal of Veterinary and Animal Science、他多数	

思想の啓発普及のための“人と動物の会”を立上げ同年より東京事務所を開設しました。さらに2013年(平成25年)9月には、倉吉市内に待望の動物保護施設である「アミティエ」を鳥取県の協力体制のもと立上げました。その結果、多くの動物達の尊い生命を救命することが可能になりました。

本公益財団法人は、前述の如く具体的には「動物臨床医学会」を中心とした獣医学術の向上と“人と動物の会”を中心とした動物愛護思想の啓発普及の二大事業を両輪として展開して行く所存です。

今後は、関連機関等の御支援のもと事業のさらなる充実・発展を図り、もって獣医学術と動物福祉の向上に努める所存です。

今後とも関係各位のさらなる御支援・御指導をお願いするものであります。

2014年10月吉日

The Presidents Profile

Activity

活動 

獣医学術の発展と 社会福祉向上のために

当財団は、獣医学に関する臨床的研究を行い、併せて獣医療技術の向上を図るための教育と知識の普及及び情報提供を行うことにより、動物臨床医学の向上を図り、また、人と動物の共生の探求及び動物愛護思想の啓発普及事業等を行い、もって獣医学術の発展と社会の福祉の向上に寄与することを目的としています。



動物臨床医学会

開催：毎年11月 第3週金・土・日曜日 場所：大阪



明日の臨床のために 役立つ獣医学を学ぶ

当学会は、日本学術会議の協力学術研究団体として認められている正式な学会です。臨床獣医師の症例検討会を柱とし、現場の獣医師が明日からの臨床に生かせる知識を得ることができる場を提供することにより、臨床獣医学の向上を目指しています。研究関係が主の一般口演や教育講演、各種セミナー、パネルディスカッションなども開催しており、基礎獣医学から最先端医療まで幅広い分野を網羅している学会です。臨床獣医師(動物病院)を常に意識した学会運営を行い、動物看護師や動物病院スタッフセミナーなどを古くから行っています。今では、日本で最大規模の学会に成長し、3日間の開催期間に獣医師や動物看護師、学生、市民、及び企業の方など、約4,500～5,000名のご参加を頂いています。



2009年11月

後援

農林水産省、厚生労働省、文部科学省、環境省、大阪府、大阪市、(公社)日本獣医師会、(公社)大阪府獣医師会、(公社)大阪市獣医師会、(公社)鳥取県獣医師会

学会 コンテンツ



症例検討



パネルディスカッション



懇親会



展示会場(約200社)

一般口演
卒後教育セミナー
分科会セミナー
モーニングセミナー
イブニングセミナー
クリニカルシンポジウム
ポスターセッション
市民公開シンポジウム
産業動物医学フォーラム
動物病院スタッフセミナー

「知の市場」連携・開講機関
合同カンファレンス

開催：毎月1回 場所：倉吉市



自己研鑽と自己実現のために

長年に亘り開催して来ましたが、2010年度より「知の市場」の連携機関・開講機関となり、展開することとなりました。獣医師、獣医系大学の学生、動物看護師及び動物医療従事者を対象に受講者を募り、毎年4月より1年間(前期・後期)の、授業形式で開講します。「知の市場」は、「互学互教」の精神のもと「現場基点」を念頭に「社会学連携」を旗印として実社会に根ざした「知の世界」の構築を目指して、人々が自己研鑽と自己実現のために自立的に行き交い自律的に集う場とすることを理念に掲げています。

農林水産大臣 指定


小動物臨床
研修診療施設



動物臨床医学研究所グループ
として認定

2011年3月、小動物臨床研修診療施設の協力型臨床研修施設として初めて農林水産大臣の指定を受けました。獣医法の一部を改正する法律の施行に伴い、診療を業務とする獣医師は、免許を受けた後においても大学や農林水産大臣の指定する診療施設において研修を行うように努める旨の規定が追加されております。今回、関係病院である倉吉動物医療センター・山根動物病院を基幹診療施設とし6つの協力病院で構成された協力型臨床研修施設として認可を受けました。財団は、研修員会や研修プログラムなどを通して、これら施設と積極的な協力体制をとっています。臨床獣医師の育成に必要な、臨床獣医学に求められる必要な知識や技能を習得できるよう、また動物医療に対する社会的な要請に応じることができる精神や態度を身につけることができるような卒業教育施設としての役割を果たしていきたいと思っています。

研修施設



倉吉動物医療センター

倉吉動物医療センター・山根動物病院(基幹診療施設) ……	鳥取県倉吉市
米子動物医療センター(協力診療施設) ……………	鳥取県米子市
山陽動物医療センター(協力診療施設) ……………	岡山県赤磐市
セントラルシティ動物病院(協力診療施設) ……………	愛媛県四国中央市
小出動物病院(協力診療施設) ……………	岡山県小田郡矢掛町
シラナガ動物病院(協力診療施設) ……………	山口県周南市
舞鶴動物医療センター(協力診療施設) ……………	京都府舞鶴市

社会貢献活動
人と動物の会

人と動物の会は、動物愛護活動や動物愛護思想の向上および動物との共生を推進するために公益財団法人動物臨床医学研究所内に2011年に発足しました。2013年には、当財団自ら直接的な動物愛護活動を行うために、「人と動物の未来センター・アミティエ」を開設し、2014年からは鳥取県とも連携し、保健所で処分される運命の犬や猫の引き受けを開始しました。このアミティエでは、動物保護・譲渡活動を中心に、アミティエフェスタやセミナーを開催し、動物愛護の普及啓発活動を行っております。



人と動物の未来センター Amitié アミティエ (鳥取県動物愛護センター)

福島のシェルターで保護されている被災犬と猫を10頭受け入れることから、人と動物の未来センター・アミティエの動物保護活動は始まりました。この施設は、当財団の野生生物センターを拡充したもので、約16000㎡の広大な敷地に約330㎡の動物愛護施設を有しています。大規模な芝生のドッグランも有しており、保護犬は1日数回ドッグランで遊びながら、訓練を受けています。また、一般のボランティアさんにもご協力頂いて、施設の清掃や動物の世話など職員と共にしています。ご興味のある方は、犬や猫に会えますので、いつでもアミティエにお越しください。



アミティエでは
どんなことをしているの？

ワクチン接種、去勢・不妊手術、マイクロチップの装着はもとより、病気が見つければ治療も行うなど高いレベルで健康管理を行い、里親さんを見つけるという譲渡活動を行っています。また、動物とのふれあいや講習会、各種イベントを通じて、動物愛護思想の向上および動物との共生を推進しています。なお、殺処分される動物が多いということもあり、今は保健所からのみ受け入れをしています。



アミティエ フェスタ

ほぼ毎月、アミティエフェスタを開催しています。このフェスタでは、保護犬や保護猫とのふれあいや、施設見学、譲渡説明会、犬のしつけ方教室、わんわん運動会などを開催しています。ここで出会った犬や猫の里親を希望される方も多く、毎回里親希望のお申し込みがあります。



動物愛護フェスティバル

アミティエが9月にOPENしたこともあり、1周年記念もかねて行った2014年のフェスティバルでは、いつものイベントに加え、屋台村や体験乗馬なども行いました。知事や市長はじめ、600名以上の市民の方にお越し頂きました。9月のアミティエフェスタは、毎年、動物愛護週間に開催していきます。



市民向けイベント

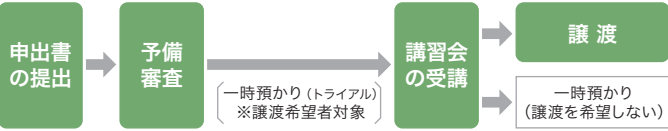
毎年、音楽会や各種講演会を開催しています。これらの会では、普段はあまり動物に関わりがない方も多くご参加頂いており、当財団が行っているアミティエなどの活動を紹介したり、動物関係でご活躍されている講師を迎えたりして、動物愛護の普及啓発を行っています。



当施設に保護されている犬や猫の里親さんを募集しています。

ワクチン接種、去勢・不妊手術、マイクロチップの装着はもとより、病気が見つければ治療も行うなど高いレベルで健康管理を行い、里親さんを見つけるという譲渡活動を行っています。また、動物とのふれあいや講習会、各種イベントを通じて、動物愛護思想の向上および動物との共生を推進しています。なお、殺処分される動物が多いということもあり、今は保健所からのみ受け入れをしています。

■里親になるまでの流れ ※里親に関することは、財団本部（鳥取県倉吉市）まで譲渡時にはご寄付としてご支援をお願いしています。



動物たちが快適に過ごせる施設

施設内には、中型犬や大型犬がゆったり入れるようなワン個室や、複数頭の犬や超大型犬に対応できるなかよしROOM、小型犬が入る犬舎、猫専用の部屋などがあります。また、屋外にはどなたでも利用できるドックランもあります。(所定の手続きが必要です)



野生鳥獣の保護・管理活動

当財団の本拠地である鳥取県を中心として、様々な野生動物の救護活動及び啓蒙活動を、(公財) 動物臨床医学研究所附属施設野生生物センターを中心として行っています。

野生どうぶつ友の会 会員募集のご案内

入会金 無 料 基 金 1口 2,000円以上

当会の趣旨に賛同いただける方ならどなたでも入会できます。会員の皆様からお寄せいただいた基金は、この会の活動を支える大切な資金となります。会員の方にはニュースレター「Pinyo」や、講習会・講演会などの行事案内を、定期的にお届けしています。

盲導犬の育成

現在、実働約1,000頭の盲導犬が日本各地で活躍しています。日本では全体的な頭数も不足しており、加えて盲導犬は10歳前後で引退となるため継続的な育成活動が必要になります。当財団では盲導犬育成基金をもとに盲導犬協会に盲導犬の育成をお願いしています。全国各地の方に、これまでに4頭の盲導犬を貸与しています(2014年現在)。

サポーター会員募集のご案内

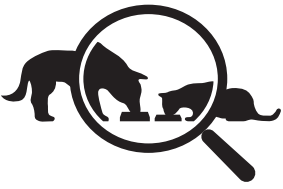
アミティエの活動は、皆様からのご寄付などにより支えられています。不幸な動物を救う私たちの活動には多くの経費が必要です。一頭でも多くの動物たちを救うため、ご支援(サポーター・ご寄付)をお願い申し上げます。

- 一般サポーター (A・B)：私たちの活動を支える一般的なサポーターであり、保護する動物達の支援者となります。サポーター Aは、1年間1日あたり約38円のご寄付となり、1頭の1日分の食事代程度にまいます。
 - ◎一般サポーター A 入会金2,000円(初年度のみ) 寄付/年(一口) 12,000円
 - ◎一般サポーター B 入会金2,000円(初年度のみ) 寄付/年(一口) 5,000円
- ジュニアサポーター：16歳未満(中学生以下)の方からのサポートです。
 - ◎入会金不要 寄付/年(一口) 1,000円
- フォスターペアレント(養い親)：直接、動物の里親(飼育)・世話が出来ない方に、保護している動物を養い親として、資金面でサポートして頂く制度です。フォスターペアレントの方には保護している動物をご紹介します。なお、その動物が里親に行く場合もありますので、ご了承ください。
 - ◎入会金2,000円(初年度のみ) 寄付/年(一口) 60,000円
- 法人会員：我々の行っている動物愛護活動にご賛同いただける企業の皆様のご支援ご協力をお願いしております。
 - ◎入会金不要 寄付/年(一口) 200,000円
- ご寄付：シンプルなお寄付となります。保護している動物達のために大切に活用させていただきます。

詳しくは東京事務所(人と動物の会)にお問い合わせください



小動物臨床血液研究会テキスト



研究会ロゴマーク

小動物臨床血液研究会

1993年に小動物臨床における血液病学の発展と普及を目的に発足しました。年に2回大阪と東京で開催しており、血液疾患の診断や治療に関する教育講演やシンポジウムと、実際に顕微鏡を観ながら症例検討を行う顕微鏡ディスカッションなどから構成されています。

小動物臨床栄養学研究会

2003年に発足し、我国において未だ十分に確立されているとはいえない「栄養学」の臨床研究分野を産業界と共により充実したものにし、臨床における理解を深め幅広い活動を展開し、臨床獣医界に寄与することを目的に活動しています。各種疾患に対する栄養管理の具体的な方法やその重要性などの情報を発信し、小動物臨床の場で実際に用いることができる臨床栄養学の発展普及を目指しています。



研究会ロゴマーク

動物のいたみ研究会

2003年に、動物の「いたみ」からの解放こそ今後の獣医学臨床に課せられた重大な使命であるとの理念のもとに、産業界が研究会と一体となって学術研究を進め、その成果を基に「いたみ」に対する理解と獣医学的対応の普及・啓発を図ることを目的として発足いたしました。動物の痛みの評価やその治療法について多くの獣医師に対する教育講演を行い、また日本での動物病院内での疼痛管理の現状をまとめ海外の学会で発表するなど幅広い活動をしています。

その他の活動

治験などの各種臨床試験

新薬を販売するためには薬事法上の承認が必要です。当財団では様々な動物用医薬品の治験などの臨床試験を行っており、より安全で有用な新薬の開発支援を行っています。

各種セミナー等の企画・開催

獣医医療の発展のため、学会、研究会をはじめ、卒後教育セミナーとして毎年各地で開催し、臨床に役立つ基礎獣医学から最新の獣医学まで様々な情報の提供を行っています。

科学研究費補助金研究機関 文部科学大臣指定

2010年7月、文部科学大臣より科学研究費補助金の研究機関に指定されました。科学研究費を活用し、独創的・先駆的な学術研究に取り組んでおります。



学術交流 Scientific Exchange

2008年12月、友好親善と学術交流を通じ獣医学の発展を図るために、当財団と韓国のRoyal Animal Medical Centerとの間で協定を締結しています。また、2009年1月、当財団と韓国獣医師会および台湾獣医師会との間で同様の協定を結んでおり、毎年、国を変えて学術交流(研究発表会)を行っています。

※写真/左: 山根義久理事長 中: 台湾獣医師会会長 右: 韓国獣医師会会長

功績 Achievements

動物臨床医学研究所の活動が評価され多方面から表彰をいただきました。



環境大臣表彰



関西盲導犬協会感謝状

Publication

出版

動物臨床医学研究所が発行・監修などしている出版物



動物臨床医学

年4回

日本学術会議の協力学術研究団体として認可された動物臨床医学会が発行した学術雑誌です(年に4回発行)。投稿論文には査読制度があります。その認知度は大変高く、多くの大学から投稿論文が学位論文として認められるなど、高い評価を得ています。内容としては、病気の解説などを行う総説や特別寄稿、オリジナリティがあり獣医臨床に関連がある原著論文、症例報告、短報を始め、アイデア、技術講座などがあり、さらに最近の外国雑誌の要約を和訳した文献紹介などで構成されています。会員の皆様のみの配布となります。

動物臨床医学会年次大会
プロシーディング

毎年11月

動物臨床医学会では毎年11月にNo.1～No.5にわたる年次大会プロシーディングを出版しています。No.1には卒業教育セミナー、分科会セミナー、パネルディスカッションなど、No.2には約200症例の症例検討(症例毎に2ページにわたる詳細な抄録)、No.3には一般口演、特別セミナー、各種シンポジウムなどの抄録が掲載されています。また、No.4はスタッフセミナー、No.5は産業動物医学フォーラムの抄録となっております。

会員になれますと会員区分に応じてプロシーディングが無料配布されます。

イヌ・ネコ家庭動物の医学大百科(改訂版)

当財団関連の120名の獣医師によるイヌ・ネコの疾患を中心とした解説本です。イヌ・ネコの体のしくみから、動物を飼うための基礎知識、病気が疑われる症状とそのケア、病気と治療などについてイラスト、写真などを用いてわかり易く解説しています。獣医療に関わる方のみではなく、一般の方々にも理解しやすい表現を用いて解説していますので、家庭においても非常に役立つ一冊です。

- News Letter「ミューズ」…………… 年6回
- 合同カンファレンス冊子…………… 年10回
- アミティエ…………… 年3回
- 伴侶動物が会おう中毒
- 消化器疾患100症例
- 循環器疾患100症例
- 動物が出会う中毒

iphone / ipad用のアプリ

イヌ・ネコ家庭動物の医学大百科

【ビエ・ブックス】(ONESWING) 開発: Keisokugiken Corporation

日本初!このコンテンツがあなたのペットの生命(いのち)を守ります。あなたの大切なイヌやネコが病気になったら、どうしますか?気になる病気の早期発見と治療を756ページで詳しく解説。



Enrollment guidance

入会案内

動物臨床医学会会員募集のご案内

会員特典

- 1 出版物の無料配布
- ・動物臨床医学—Journal of Animal Clinical Medicine—(年4回発行)
・動物臨床医学会年次大会「プロシーディング」3冊セット(年1回発行)
・News Letter「ミューズ」(年6回発行) ※個人C会員は対象外です
- 2 当財団が主催する大会及び、セミナー等の参加登録料の割引
- 3 当財団が発刊する出版物価格が20%割引(一部対象外もあります)
- 4 心電図解析サービス
- 心電図の解析から治療までアドバイスいたします。
- 5 文献コピーサービス
- 学術誌に掲載されている文献をコピーいたします。

※年会費、学会参加登録料は、2012年度より適用

会員区分	会員条件	プロシーディング (No.1～3)	動物臨床医学	年会費
個人A会員	動物病院開設獣医師もしくは院長。	配 布	配 布	39,000円
個人B会員	個人A会員に該当しない獣医師(勤務医など)、看護師、医師等。	配 布	配 布	20,000円
個人C会員	会員条件は個人B会員に準ずる。但し、A・B会員への変更は随時可能。	—	配 布	12,000円
団体会員	企業、研究機関、動物園等の団体で記名式により5名までを1会員とする。ただし小動物診療施設は除く。プロシーディングは1セットのみ配布。	配 布	配 布	50,000円
特別会員	獣医大学の教職員で年次大会に積極的に協力していただける方。	配 布	配 布	10,000円
学生会員	獣医大学の学生及び大学院生(社会人大学院生、研究生は除く)。入会・更新時に学生証のコピーを提出。	配 布	配 布	8,000円

◎動物臨床医学会参加登録料

区分	事前登録	当日登録	プロシーディング(テキスト)
個人A,B,C・団体・特別会員	10,000円	15,000円	当日配布(個人C会員は配布なし)
個人A会員の家族・勤務獣医師	12,000円	17,000円	配布なし
学生会員(社会人大学院・研究生は除く)	3,000円	5,000円	当日配布
非会員	20,000円	25,000円	配布なし
産業動物獣医師	10,000円	15,000円	産業動物用テキスト当日配布
スタッフ(VT) 【2日参加】	12,000円	13,000円	スタッフセミナー用テキスト当日配布
スタッフ(VT) 【1日参加】	7,000円	8,000円	スタッフセミナー用テキスト当日配布

賛助会員の募集

これまで本財団の主な事業は、獣医学術の発展に寄与する目的での学会、セミナー、研究会をはじめ、臨床研究が主体でありました。公益財団法人に移行後は、動物愛護と福祉の充実を目的に、動物保護施設である「人と動物の未来センター“アミティエ”」を立ち上げ、活動を展開してきました。本公益財団法人は、これらの事業の充実を目的に賛助会員を募集しています。詳細は下記までお問い合わせください。

◎賛助会費

賛助会員(団体) 年額 50,000円(一口)以上

賛助会員(個人) 年額 20,000円(一口)以上

入会希望の方は

公益財団法人 動物臨床医学研究所 Tel.0858-26-0851 までお問い合わせ下さい

ホームページでも可能です。 <http://www.dourinken.com/>

施設案内



動物臨床医学研究所外観

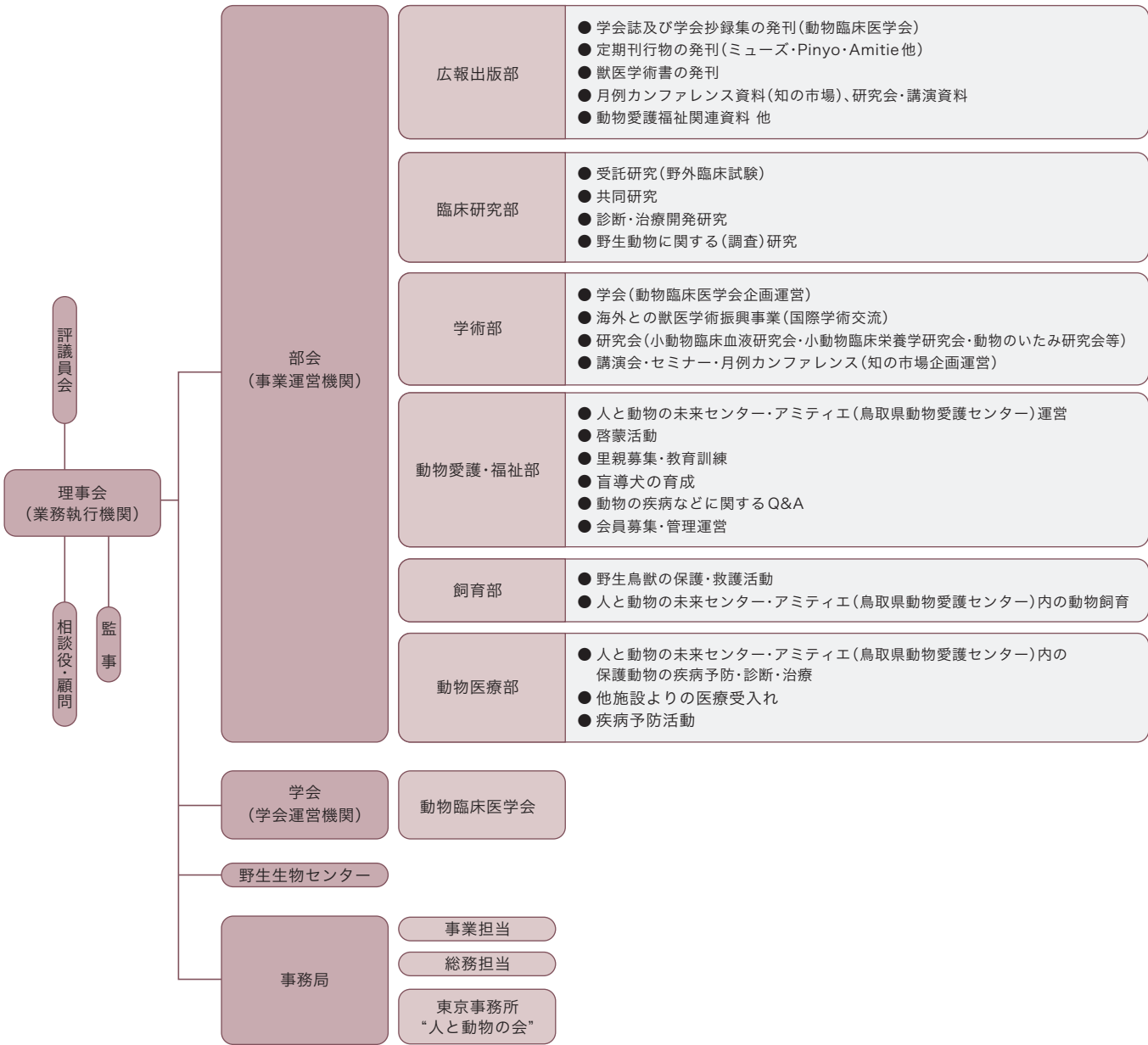


1Fロビー玄関「みのりの樹」

財団活動を支援いただいた方々のお名前を、
梨の果実と葉のプレートに刻み、
研究所玄関に掲示しています。

1F 手術室・研究員室 2F 図書室・事務局 3F カンファレンスルーム・理事長室 4F 動物舎・病理検査室 野生生物センター

機関及び事務局の組織図



沿革

昭和55年(1980)	11月	第1回動物病院臨床研究グループ年次大会開催[鳥取市]
昭和56年(1981)	10月	小動物臨床研究所開設
昭和57年(1982)	11月	第3回小動物臨床研究会年次大会開催[鳥取市] (動物病院臨床研究グループ年次大会より名称変更)
昭和58年(1983)	11月	第4回小動物臨床研究会年次大会より会場を大阪に変更 (以降、年次大会は毎年11月に大阪で開催)
平成3年(1991)	4月	組織を財団法人(鳥取県認可)に改組 財団法人 鳥取県動物臨床医学研究所となる
平成4年(1992)	4月	購読会員制の導入
平成5年(1993)		第1回小動物臨床血液研究会開催(以降、年2回東京・大阪で開催)
平成6年(1994)		附属動物舎整備(現野生生物センター)
平成7年(1995)		研究所本館建設
平成8年(1996)	11月	第17回動物臨床医学会年次大会開催[大阪](小動物臨床研究会年次大会を学会として発足)
平成20年(2008)	12月	韓国Royal Animal Medical Centerとの間で、友好親善と学術交流に関する協定締結
平成21年(2009)	1月	韓国獣医師会および台湾獣医師会との間で、友好親善と学術交流に関する協定締結
平成23年(2011)	4月	組織を公益財団法人(内閣府認可)に改組 公益財団法人 動物臨床医学研究所となる
平成23年(2011)	12月	人と動物との共生を推進するために財団内に「人と動物の会」を発足
平成25年(2013)	9月	人と動物の未来センター・アミティエを開設
平成26年(2014)	4月	鳥取県とアミティエとの提携開始(鳥取県動物愛護センター)

研究所役員

顧問		石破 茂 城島 光力 野一色 泰晴 山村 穂積 本好 茂一 柴崎 文男 林 良博	衆議院議員 前衆議院議員 横浜市立大学医学部 特任教授 フェニックス企画(株) 代表取締役 日本獣医生命科学大学 名誉教授 柴崎動物病院 院長 国立科学博物館 館長・東京大学 名誉教授
役員	理事長	山根 義久	東京農工大学 名誉教授(医学・獣医学博士)
	常務理事	山形 静夫 下田 哲也	山形動物病院 院長(獣医学博士) 山陽動物医療センター 院長(獣医学博士)
	理事(研究所長)	高島 一昭	倉吉動物医療センター・山根動物病院 院長(医学・獣医学博士)
	理事	竹中 雅彦 廣瀬 孝男 宇野 雄博 佐藤 正勝 赤木 哲也 手塚 泰文 松本 英樹	竹中動物病院 院長 加西動物病院 院長 宇野動物病院 院長・セントラルシティ動物病院 院長(獣医学博士) 佐藤獣医科医院 院長(獣医学博士) 赤木動物病院 院長 高島平手塚動物病院 院長(獣医学博士) まつもと動物病院 院長(獣医学博士)
	監事	久野 由博	くのペットクリニック 院長
	評議員	藤原 明 小出 和欣 加藤 郁 白永 伸行 山根 剛 山田 英一 加藤 吉男 藤田 桂一 綿貫 和彦 土井口 修 山本 景史 氏政 雄揮 桑原 康人 真下 忠久	フジワラ動物病院 院長 井笠動物医療センター・小出動物病院 院長 加藤どうぶつ病院 院長(医学博士) シラナガ動物病院 院長 米子動物医療センター 院長(獣医学博士) 山田動物クリニック 院長(獣医学博士) ベットの病院カトウ 院長 フジタ動物病院 院長(獣医学博士) ドリトル動物病院 院長 熊本動物病院 副院長 サン・ペットクリニック 院長 アームズ(株) 代表取締役・(株)ブイエムスリー 代表取締役 クワハラ動物病院 院長(獣医学博士) 舞鶴動物医療センター 院長

2014年10月現在